

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">会 議</div> ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	—
		決裁期日	平成 2 8 年 4 月 1 8 日
名 称	第 6 回未来創生委員会（平成 2 7 年度第 1 回）		
日 時	平成 2 8 年 4 月 8 日 午前 ・午後 1 0 時 0 0 分 ～ 1 2 時 0 5 分		
場 所	安平町役場早来庁舎（第 2 会議室）		
出席者	安 平 町 （企画財政課）木林課長、岡主幹、木村主幹 委 員 未来創生委員会委員 1 0 名 外部有識者 北海学園大学経営学部教授 菅原浩信氏 F P オフィス・サポート代表 星洋子氏		
会議概要	<p>1 開会（進行：木林企画財政課長） ◇半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委員長挨拶 ◇年度代わりでお忙しい中、委員の皆様にお集まりいただき感謝申し上げます。 ◇事務局から報告があるが、4月1日付けで、当委員会委員である北海道銀行早来支店長の井坂様に異動があり、新たに1日より山崎様が支店長として赴任され後任の委員として本日よりご出席いただいている。 ◇本日の議題は、いよいよ本格的議論を進めていくこととなる、第2次安平町総合計画の全体構造・体系について共通認識を深めていただくとともに、町民から吸い上げた意見を、どのように計画反映していくか事務局より提案がある。 ◇加えて、今年1月に皆様にご決定いただいた、まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく、平成27年度に行った各種施策の検証を行いながら、今後策定する総合計画と行政評価システムをどのように連動させていくか検討が必要。</p> <p>3 新委員のご紹介 ◇委員長からの報告のとおり、委員として参画いただいていた北海道銀行早来支店長の井坂様が本店にご異動となられ、新たに4月1日から支店長として山崎様が赴任された。 ◇この会議開催前に、町長より委嘱状を交付。</p> <p style="text-align: center;">＜北海道銀行早来支店の山崎支店長挨拶＞</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月に前任の井坂支店長に代わり赴任した。 ・ 安平町の総合戦略については、目を通させていただいた。今後具体的事業が実行されていると認識。 ・ 我々金融機関が培ってきたノウハウを、この委員会に参画させていただきながら、事業推進に向けて我々も取り組んで行きたいと考えている。 </div> <p>4 議 題 （1）第2次安平町総合計画の構造・体系（素案）について（説明：企画財政課 岡）</p>		

【概略説明（ポイント）】 資料は第2次安平町総合計画「基本構想」の構造・体系（素案）

- ・資料に掲載しているのは第2次総合計画の設計図となるもの。
- ・第1次総合計画は体系が複雑になっている。
- ・次期総合計画では、選択と集中、実効性ある計画を念頭にしており、計画の体系についても分かりやすいものを作っていく。
- ・この設計図については、今後庁舎内や菅原アドバイザーとの協議を通じて改善していくこととなるが、どのようにして総合計画を組み立てていくのかということを通認識するため議題とした。
- ・第2次総合計画策定において認識しなければならない自治体を取り巻く環境の変化と課題を踏まえ、これまでの10年間の総括を行うとともに、町民の皆様から意見をいただき、これらをもって安平町の現状認識を取りまとめる。
- ・この現状認識の中から、安平町の強み、弱み、将来的な強み、将来的な弱みを整理し、これを通じて向こう10年で投資効果の強いものを見つけ、伸ばしていくべき政策の方向性を決めていく。
- ・このうち「強み」をしっかり把握して、安平町の将来像を定める。
- ・安平町の強み・弱みを整理し、向こう10年において投資効果が高くのばしていくべき政策の方向性を決めていくというもの。
- ・安平町の特徴は多くあり、中に埋もれているものも多く、安平町の理想像、将来像を定め、町民と行政が一丸となってまちづくりを展開していく図式となっている。
- ・まちづくりというものに向けたアプローチと将来象が決まることによって、安平町の10年間はどのような政策や重点プロジェクトも決まる。
- ・菅原教授からご意見あればご指摘願いたい。

【菅原アドバイザー】

- SWOT分析の「SWOT」であるが、強みが「S」、弱みが「W」、機会が「O」、脅威が「T」。
- このうち、資料左上の自治体を取り巻く主な環境の変化課題等はO（機会）D（脅威）であり、安平町だけではなく他自治体でも共通の問題。
- 現状認識が「強み」「弱み」となる
- 今後10年に向け、安平町の強み弱みを引き出しつつ、将来象を設定すべき。
- SWOTを抽出し、4つそれぞれの掛け合わせが街づくりの方向性に繋がっていくと言える。
- 資料にある、「まちづくりの基本的方向性」と「基本目標」を統合し、よりわかりやすくするのも一つの手だと思う。
- 最も優先すべきテーマである重点プロジェクトは、絞りこみが必要。
- 重点プロジェクトの意味合いは、最も重要なテーマであることはもちろん、行政内部の各部門間において横断型で解決していくことで、連携を要し、職員間の意識改革にも繋がるという意味合いも持たせるべきかと思う。
- 資料のSWOT分析の例示として強みに「自然」と記載があるが、これは安平町だけではなく、他にも共通である。
- 「安平町ならではの自然とは何か」を突き詰める必要がある。
- 他の例示も同じ。強みについては、もう少し深く、安平町だけの強みとして深く考える必要がある。
- この「安平町だけの強み」をどれだけ引き出せるかが今回の肝であり、計画の作り方も変わると思う。

(企画財政課 岡)

- ・菅原教授のおっしゃるとおりSWOT分析については、しっかりと安平町の分析を行い、事務事業までつなげていきたい。
- ・町民のアンケート調査、団体のヒアリング、町民まちづくり会議を行いSWOT分析で深掘したものを作らなければならないと考えている。
- ・安平町がこの先10年優先して取り組んでいかなければならないポイントを何に絞っていくのかは、この委員会で共通認識していかなければならないと考えている。
- ・高齢者に対応したまちづくりなのか、子育てなのか、雇用なのか、農業なのか、委員の皆様も考えておいていただきたいと思う。

(小林委員長)

- ・今の説明に対して質問・意見を受けたいと思う。

<田中委員>

- ・アンケートの意見を見て感じたことは、この町に住んでいる各世代が幸せに過ごすためには何が必要か、という意見が詰まっていると思う。
- ・「強み」「弱み」は大事だが、本当に町の人が幸せになる要素は何なのか。何がニーズなのか検証した上で、「強み」「弱み」を見つけ出すことも必要かもしれない。
- ・「強み」と「弱み」だけで構成すると、町民のニーズから離れていくことが危惧される。

(企画財政課 岡)

- ・資料の一番上にある「安平町の現状認識」をしっかりと行った上で、SWOT分析をするべきなのは間違いないので、取り組んでいく。

<佐々木委員>

- ・最終的には10年間自分たちが生きていく安平町の将来を決めていくことになるが、「強み」「弱み」だけで、決めてしまっているのかということと、もう少し時間をかけて考えていくことがいいのかと感じる。
- ・アンケート意見にある、町民の思いを詰め込んでいく必要があるのでは。

(企画財政課 岡)

- ・まちの将来象については、拙速に決めてしまうことはしたくないというのは、同様の考えである。

<菅原アドバイザー>

- ・委員の意見にあった「町民にとっての幸せ」とは、人それぞれあり、それを考えなければならない。
- ・安平町の「良いところ」「悪いところ」は人によって違う。こうした各世代・人によって異なる価値観を踏まえる必要があり、時間をかけるべきと申し上げた。単純に強み弱みを考えるのではなく、どういうまちになったら幸せといえるのかということも踏まえSWOT分析を行うべきものであるかと思う。

＜佐々木委員＞

* 菅原アドバイザーへの質問

- ・ その場合、人々の幸せについては、性別もあり、年齢もあり、生活環境によっても異なる。
- ・ 町民が何を求め考え、理想像を描いているか。それを掴むには、アンケートでいただいた意見しか無いと思うがいかがか。

＜菅原アドバイザー＞

- ・ どのような想い・背景があつての回答か不明なので、アンケートだけでは、わからない。
- ・ それが、このあとの町民まちづくり会議であつたり、団体ヒアリングであつたり、また別の手段を考えたり、委員がそれぞれ町民から意見を聞いたりすることが必要になってくると思う。

(企画財政課 岡)

- ・ 総合戦略を策定した際、委員の皆様からいただいた意見としては、「総合戦略の内容・施策が総花的であり、もっと絞り込む必要がある」という意見であつた。本日の意見では、「世代等によって「幸せ」が異なるので、それらを具現するにはどうしたら良いかを考えなければならない」という意見となっている。
- ・ 総合計画では重点を絞るとは言いながら、行政としては重点以外のサービスを止めることはできない部分もある。
- ・ こうした実情を踏まえて、向こう10年のポイントを考えていかなければならない。
- ・ アンケートの意見は多岐に渡る。
- ・ 過日開催した100人フォーラムでは、子育て世代に特化した将来像を望む声が多数であつた。
- ・ これらを集約して、計画を作り上げていくことは非常に難しい作業であると認識。

(2) 総合計画策定に必要なSWOT分析の考え方について(説明:企画財政課 岡)

【概略説明(ポイント)】資料は「アンケート結果」「安平町SWOT分析表(イメージ図)」「望ましい姿」「目指すべき姿」「進むべき道すじ」「まちづくり」などについて(アンケート自由意見からピックアップするキーワード)

- ・ 昨年12月に暫定結果を報告した際に委員から「意見を大切に扱うこと」「年齢別回答者数が高齢者に偏っており、これだけでは町民意見とは言えない」など、課題としている。
- ・ このうち、偏った世代に回答が集中している部分については、今後の町民参画で是正していきたい。
- ・ 意見を大切に扱うという課題への対応が、本日の議題であるSWOT分析の考え方につながっている。
- ・ 町民意見の中から、キーワードを抜き出し、「強み」「弱み」「分野ごとに今後検討すべき意見」を抽出した。(関連資料は次の①と②)
 - ①安平町SWOT分析表(イメージ図)
 - ②「望ましい姿」「目指すべき姿」「進むべき道すじ」「まちづくり」などについて(アンケート自由意見からピックアップするキーワード)
- ・ これら意見の中から、言葉をピックアップして計画策定の議論として活用する。

<西村副委員長>

- ・アンケート結果の少なさ、そして若年層の意見の少なさの要因は何なのか。
- ・アンケートの方法について何かしら検討はどうすればよいのか。
- ・公共交通機関に対する意見が多かったが、町内移動における意見なのか、町外に出かけるための交通機関なのか分からない部分もある。
- ・アンケート内容を絞ることも今後重要ではないか。

<佐々木委員>

- ・アンケート結果をどうやって分析するか。この次にどうするべきかを委員会の中で考えていく必要があるのかもしれない。
- ・アンケートのまとめを委員で考えていく必要があるのではないか。

(企画財政課 岡)

- ・アンケート結果が少ないことにアンケートの手法にも問題があったと思うが、構造的な問題が大きいと分析。
- ・別の会議でも指摘されたが、若者の回答率が低い要因として「行政に意見を言っても何も変わらない」という意見がある。
- ・今後、行政サービスを行政だけが実施していくことは困難であり、町民とともに、まちづくりを進めていく必要がある。
- ・総合計画策定に併せて、町民参画のまちづくりの機運を高めていくことが重要。
- ・佐々木委員から、アンケート結果のまとめを議論する必要があるという意見であったが、この委員会でまとめを作るのではなく、アンケート以外からも意見も抽出し、また町民まちづくり会議等で議論を行っていく考えにある。

<菅原アドバイザー>

- ・想いやニーズを汲み取る必要はあるが、そのまま反映させることは困難。
- ・優先順位が必要である。それを考える上でアンケートは材料となる。
- ・アンケートの問8で、満足度、重要度についてみれば、満足度の数値から重要度の数値を引いてマイナスが大きいもの（商業・公共交通・雇用対策など）は、特に何とかしなければならぬかもしれない。
- ・世代をある程度絞って分析しなければ判断を誤ることにつながりかねない。

<福田委員>

- ・安平町で生まれ育ったが、同世代と話をしても「言っても取り上げられない」という感覚が我々の世代には根強くある。
- ・長く住んでいる人ほど、町に対する思いは強いはず。
- ・今後10年を考えるうえで、若い人からの意見を吸い上げるのであれば、足を使ってアンケートとるなど、その手法の工夫が必要。
- ・その意見を反映することで、自分たちが意見を言うことで、まちが変わるという実感が湧けば、まちづくりに参画する人は増えると思う。
- ・意外と意見を持っている若年層はたくさんいる。

(企画財政課 岡)

- ・頂戴した意見のとおりだと思う。内部で考えていきたいと思う。

<佐々木委員>

- ・そのリサーチ方法を行政だけで考えるのではなく、この委員会で検討することが重要ではないかと思う。

(企画財政課 岡)

- ・このような意見があったので、委員の皆様にご協力いただいて、意見を聴取することができないかなど、検討してみたいと思う。

(3) 安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成27年度事業検証について(説明: 企画財政課 岡)

【概略説明(ポイント)】資料は安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略のH27年度アクションプラン及びH28年度アクションプラン

- ・総合戦略については、策定しただけではなく、評価・検証を行い改善することを基本的考え方としている。
- ・その評価・検証・改善を行うためのシステムづくりが議題となる。
- ・平成27年度に総合戦略に基づき実施した事業のうち、国の交付金を活用したものを対象に試行的にシートを作成した。
- ・シートについては、計画内容→実施施策→結果評価→改善点という視点を全て一覧にすることで分かりやすさを意識しているが、一覧にしたため、大雑把な評価となるデメリットも存在。
- ・これに基づいて、今後の「評価・検証・改善システムの確立」「国の交付金を活用して行った人口減少対策施策の評価・検証」の2つの視点で、議論いただきたい。

<山崎委員>

- ・評価シートのK P Iは5か年の総計が掲載されているが、単年度K P Iが掲載されておらず、この単年度実績についても掲載されていない。
- ・やはり、単年ごとの見直しのほうが明確になるのではないか。
- ・K P Iの項目に対応した実績が必要。
 - * 企業からの問い合わせ件数がK P Iに掲載されていながら、実績で平成27年度に何件の問い合わせがあったかわからない。

<菅原アドバイザー>

- ・K P Iに対応し、平成27年度どこまで達成したかの評価と改善視点が必要。
- ・プランは5年なのに、施策は単年度になっていて、PとDの間が切れているイメージ。
- ・5か年計画のうち、平成27年度はどこまで終わったか、というものがなければならぬ。
- ・最終的には、最終目標に対して、1年目はどこまでできて、2年目はどこまでできたか。分かるようにするべき。(今のままでは事業評価となっている)

(企画財政課 岡)

- ・いただいた意見を検証シートに取り入れたい。
- ・なお、この表は総合計画でも同様に行っていく必要がある。
- ・総合計画も目標があつて、施策を展開し、評価を行って、改善するスキームとなる。
- ・全体システムを再度検討したい。
- ・再度表を作成し、全体事業も入れた上で別途確認していただくこととする。

◇以下、平成27年度の個別事業に対する評価

①雇用関係

<福田委員>

- ・企業誘致PRや他の事業においてもそうであるが、ダイレクトメール等を送る事業やデジタル的にPRするのが主となっている。
- ・しかし、ビジネスなどは口コミで広がる傾向が高い。
- ・町民の中にも町外で活躍する親戚をもつ方もいるだろう。
- ・行政だけで、誘致するのではなく、広報で町民に対して、募集協力を依頼するなど、町内全体の協力体制を作るのも手法としてあって良いと思う。
(町民すべてが営業マンという取組み)

③教育

<田中委員>

- ・何故、追分高等学校の入学希望者が定員を上回った要因は何か。

(企画財政課 岡)

- ・振興会と言う高校が事務局となっている団体を中心とした地道な生徒支援策を講じた結果、進学・就職率が向上し、学校としての評価が改善したものと考えている。
- ・また、別の会議においても、保護者が持つ、追分高等学校へのイメージ変化について意見が出ているところである。

◇全体的な部分

<菅原アドバイザー>

- ・全体的に、実施した事業と評価内容、改善点の結びつきの関連性が不明。
- ・外国人英語講師を派遣したことによって、何が寄与して成果があがったのか。
- ・改善点に特色ある教育のあり方を検討する必要があるとあるが、なぜそのような改善となるのかを説明できていない。
- ・①雇用の企業誘致PR事業でも、「事業内容であるキャンペーン事業が、なぜ事業成果として1事業者誘致につながったのか」「北町工業団地誘致が進捗しないとあるが、それはなぜか」という疑問が残る。
- ・上記のとおり、「なぜ」「どうして」がシート内にでてくることは避けたい。
- ・これら詳細が分からない限り、外部有識者は事業の評価ができない。

(企画財政課 岡)

- ・評価システム全体について、ご意見をいただいた。これについて、全体システムのあり方も含めて再検討するので、今回は、平成28年度の事業内容も含めた、総合戦略に基づく事業紹介にとどめさせていただく。

<西村委員>

- ・平成27年度事業の反省が、平成28年度の実施事業に反映されるということが良いか。

(企画財政課 岡)

- ・ここが課題。平成27年度の事業検証は全ての事業が終わった平成28年度中に行われるため、既に予算がスタートした平成28年度には反映できない。
- ・よって、平成27年度の検証結果の反映が、平成29年度予算となってしまう課題がある。

<山口委員>

- ・アンケート結果というものを取って、これをどのように反映するのか。アンケートを取って、これを反映させなければ何の意味もない。
- ・どのように反映させたのか、これを見せていく、お知らせする、公表が必要ではないか。（この町に対する「あきらめ」の要因となる）
- ・また、福田委員が発言した、家族や友人を活用した町施策のPRという話を伺い、この未来創生委員会という小さな組織だけでなく、町民を巻き込んでまちづくりというものをPRしていく必要があると感じた。
- ・町民全体で取組むため、町の施策を積極的に広報する方法が求められていると思う。

(企画財政課 岡)

- ・これは別の会議でも指摘を受けている。自分の意見がどのように反映されてかをどのように見せていくか。これは検討していきたい。

5. その他（議事進行：小林委員長）

- ・町内団体アンケート結果と100人町民フォーラム結果の報告

6. 委員長閉会挨拶

◇次回は5月23日の週で開催を予定していることを伝達し、第6回目の委員会を終了

終了 12:05